



61

泰澄大師修行の霊峰 越知山 おちさん

おおたんじ
越前町大谷寺

神仏習合の祖とされる泰澄大師。幼少より越知山に入り、海、山、里の様々な風景を見て、何を感じたのだろうか。日本百霊峰の一つ越知山、その本坊大谷寺等。山岳修験の源流が今もここに眠る。



越知山大谷寺奥之院からの望む白山（越前町大谷寺）

越知山（標高613m）は、丹生山地西部に位置し、「越の大徳」と呼ばれた泰澄大師が開山し、青年の頃まで修行した場所と伝えられています。山頂には、越知神社をはじめ、大己貴尊を祀る奥の院や千体地藏尊・大師堂・社務所・別山などが配され、神仏習合の



殿池（越前町大谷寺）①

山岳霊場として栄えました。また、織田信長にゆかりがあるとされる殿池という池があります。

泰澄大師は越知山から霊峰白山を眺め、「彼の雪嶺、必ず霊神あらん。吾よじ登ってこれを試さん」と二人の弟子を連れて越知山をくだり、勝山市平泉寺から白山山頂をめざしたと言われています。

大谷寺は、泰澄大師が開創、1300年の歴



幻想的な越知山大谷寺の万灯会の光景（越前町大谷寺）②



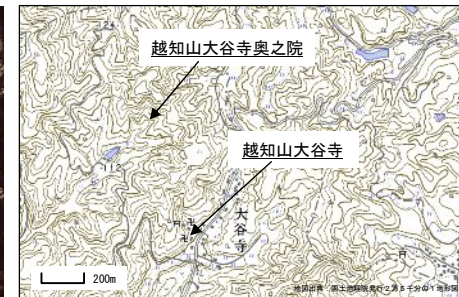
越知山大谷寺奥之院に向かう石段③

史を誇る北陸屈指の古刹です。一山の盛時は実に一千坊と言われて、大谷寺の本坊は大長院と呼ばれてきました。

また、毎年11月3日には夕やみ迫るころから、境内に祈願の文字が書かれたろうそくに火がともされ、万灯会の行事が繰り広げられます。数多くの献灯で輝く境内は、まさに神秘的な空気に包まれ、近郷近在の人たちもお参りに訪れます。



越知山山頂にある越知神社（越前町大谷寺）





太鼓響く鎮守の森 信長公ゆかりの劔神社

越前町織田

越前二の宮劔神社が鎮座する織田のまちに、今年も魂を揺さぶる太鼓が鳴り響く。見事なバチ捌きで、一糸乱れぬ連打を紡ぎ出す。



〇・TA・I・KO座 明神^①

劔神社は、約 1,800 年の歴史を持ち、敦賀市の氣比神宮に次ぐ越前二の宮として知られ、現在も幅広い信仰を集めています。

劔神社の鎮座地である織田は、織田信長公の祖先のふるさとで、織田氏は越前織田の荘官や、越前二の宮の神官として仕えてきた由緒ある家柄でした。尾張の国で勢力を広げ、信長の時代には日本全国に雄飛するまでになりましたが、信長は劔神社を氏神として深く尊敬し、武運を祈ると共に、劔神社の保護と住民の治安に尽くしたといわれています。

劔神社近辺の通り沿いには、門前町として栄えた町並



劔神社の鎮守の森 (越前町織田)^②



越前二の宮 劔神社 (越前町織田)^③



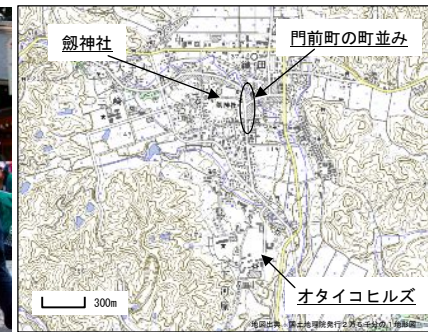
劔神社門前町の町並み (越前町織田)

みが残っており、往時の面影を偲ぶことができます。

また、同神社に毎年奉納される「明神ばやし」や各集落に伝承される「だいすり太鼓」など、この地は古くから太鼓文化が盛んで、毎年8月中旬、全国から太鼓奏者が一堂に会する太鼓フェスティバル「〇・TA・I・KO響」がオタイコヒルズで開催され、ダイナミックなバチ捌きの競演が繰り広げられます。



明神ばやし (県民俗文化財)^④





ろくこよう 日本六古窯 越前焼のふるさと

おぞわら 越前町小菅原

しぜんゆう 自然釉の風合いが特徴の越前焼。その秘密は耐火温度の高い良質の土にあるという。ふるさとの土と窯元の手のぬくもりが伝わる器は、力強く素朴で使うほどに味わいを増す。



えちぜんがほ 越前窯（薪窯）での作業風景（越前町小菅原）①

越前焼は、平安時代末期に生まれ、瀬戸・常滑・信楽・丹波・備前と並び日本六古窯の一つに数えられています。長い歴史の中では衰退の危機もありましたが、昭和46年、最初に窯が築かれたといわれる、越前町小菅原に越前陶芸村が建設され、これを契機に多くの窯元が集まり再び伝統の息吹がよみがえり、今日に至っています。



越前陶芸村（越前町小菅原）②

越前陶芸村には福井県陶芸館や広大な陶芸公園（11.8ha）などがあり、また周辺には登り窯から立ち昇る煙や陶芸家の作陶風景が見られ、豊かな自然の中、脈々と受け継がれている越前焼

の歴史を感じることが出来ます。



越前焼の作陶風景

の歴史を感じることが出来ます。

陶芸館には世界的に高い評価を受けている「越前双耳壺」が所蔵されており、大英博物館やメトロポリタン美術館にも出展された日本の名陶を間近で感じることも出来ます。

また、毎年5月の最終土、日、月曜日に越前陶芸村で開催される「越前陶芸まつり」には、県内外から多くの人々が訪れ、越前焼に親しむ光景が見られます。



越前陶芸まつり



えちぜんそうじこ 越前双耳壺



福井県陶芸館





農村の伝統美 漆喰の白壁民家群

越前町岩開、江波、福井市在田町など

雪の重みに耐えようと力強い感じを醸し出す白壁の民家。軒を連ねて建ち並ぶ姿にいつ行っても感嘆する。越前大工の伝統的な技と意匠的な配慮を感じる。



越前町江波の白壁民家群



雪の中の白壁民家と土蔵（越前町江波）①



七郷用水沿いに建ち並ぶ白壁民家（福井市在田町）

県内には、地域の文化とともに洗練されてきた特有の形態・意匠をもった伝統的民家が存在し、地域性・独自性に富んだ美しい集落景観を形成しています。特に、福井市の南部から丹南地域にかけては、漆喰の白壁が美しいどっしりとした農家の風景が至るところに広がっています。このことを作家司馬遼太郎は著書「街道をゆく（18 越前の諸道）」の中で、「越前風の民家の軽快な屋根の勾配、白壁に縦横の構造材を露出させている力学的な感じは、なんともいえずいいものであった。」と越前町を訪れたときの感想を記しています。

このような白壁の農家がひとつのかたまりの風景として切り取られるのが越前町の岩開や江波地区で、福井のふるさとの原風景が感じられる代表的な場所です。江波の集落の西側には、江戸中期に岩面に彫られた 11



土蔵と一体となった白壁の民家（越前町岩開）

体の観音像で県内でも珍しい磨崖仏である岩本観音が存在し、地域の人々から親しまれてきた歴史景観が残っています。

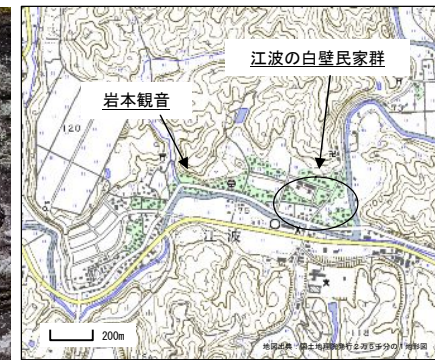


七郷用水を利用した水車（越前町気比庄）

また、民家と一体となった土蔵や塀などが一緒に存在している場合が多く、美しい民家と調和した屋敷まわり全体が農村景観を形成しています。生活上重要な用水など水辺空間との関係も深く、600 年以上の歴史がある越前町宝泉寺から福井市真栗町にかけて流れる七郷用水や二ヶ用水沿いにも漆喰の白壁民家が建ち並び、清らかな水の流れがその景観美を一層際立たせています。



岩本観音（町文化財）（越前町江波）





生産量日本一 南条花ハスの里

南越前町堂宮、中小屋など

夏の訪れとともに、土の中の地下茎から大きな葉や花を水面高くまで上げ、極楽浄土に生えるという花ハスがこれほどまでにと咲き誇る。花が美しいのは朝、南条の蓮田は静かに目覚める。



蓮田一面に開花したハスの花と収穫の風景（南越前町堂宮）^①



蘇った「大賀蓮」^②

南越前町南条地区は日本を代表する花ハスの生産地で、生産量は日本一を誇っています。

毎年7月中旬から8月中旬にかけて、南条地区のあちらこちらで花ハスの色鮮やかな花びらが開きます。見るものの心に不思議な安らぎを与えるその優美な姿は、背景の山々とあいまって、優しい光景を創り出します。

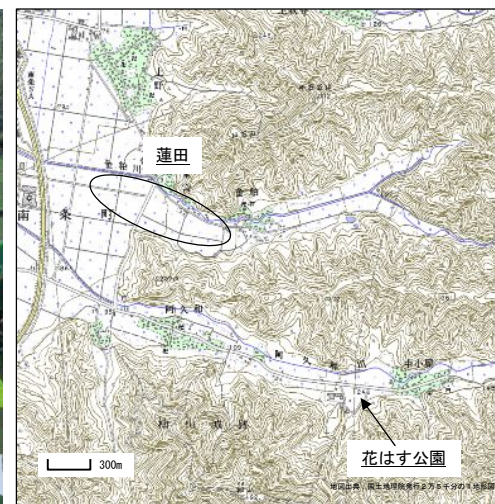


はすまつり（南越前町中小屋）^③

ハスの里を象徴する場所が「花はす公園」です。千葉県検見川の地下で眠っていたハスの実が2000年ぶりに蘇った「大賀蓮」をはじめ、世界の花ハス約120種が優美な姿で園内いっぱい咲きます。また、7月上旬から8月上旬まで開催される「はすまつり」期間中は園内がライトアップされ、日中とは違った優美できらびやかな表情の花ハスを見ることができます。



花はす公園（南越前町中小屋）





軍事・交通の要衝 北国街道宿場町 今庄

南越前町今庄、板取、湯尾など

どれぐらいの偉人たちがここで寝泊りしたのだろう。峠越えの疲れを癒す多くの人々に賑わう情景が浮かんでくる。まさに街道浪漫という言葉がふさわしい場所だ。



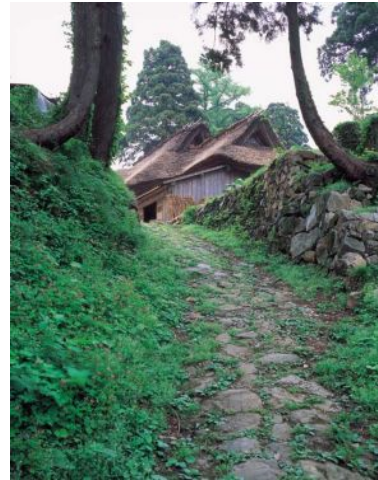
京藤屋五郎家（県文化財）と羽根曾踊り（県民俗文化財）（南越前町今庄）

今庄宿は木ノ芽峠を越える西近江路と栃ノ木峠を越える東近江路がここに集まり重要な宿場町として発展しました。現在もなお昔ながらの造り酒屋や民家など、往時の面影を色濃く残しています。毎年9月に行われる羽根曾踊りは、さかのぼること千有余年、醍醐天皇時代の延喜年間、今庄西方の神帰山光明聖寺の南院で舞われた「稚児の舞」が起源とされています。宿場町が栄えるにつれて、盆踊りとなり、街道を通る旅人の心をなぐさめたといわれる踊りは、昭和39年に県の無形民俗文化財に指定されました。



板取宿（南越前町板取）

板取宿は北国街道の北陸側の玄関口として栄え、幕末の頃には53戸の民家をはじめ旅人のための旅籠や茶屋が立ち並んでいました。現在でも兜造り型の茅葺き屋根の民家が残っており、石畳の道と相まって当時を偲ぶことができる場所です。



木ノ芽峠（南越前町板取）



湯尾峠にある芭蕉の句碑（南越前町湯尾）



北国街道と北陸街道の分岐点 文政の道標（南越前町今庄）

湯尾峠一帯も北陸道の時代から交通の要衝で、歴史的合戦の舞台となった城跡や孫嫡子信仰の発元として賑わった茶屋跡など多くの史跡が残っています。松尾芭蕉や近松門左衛門をはじめ、数々の紀行文、文芸作品に登場しており、歴史が感じられる場所です。この木ノ芽峠から湯尾峠までは文化庁の「歴史の道・百選」にも選定されています。

南越前町板取にある今庄365スキー場の鉢伏山（標高762m）山頂付近からは眼前に広がる日本海が一望でき、海の青と雪の白のコントラストを楽しむことができます。



今庄365スキー場から見る日本海（南越前町二ツ屋）





67

竜神伝説 夜叉ヶ池

南越前町岩谷

多くの伝説が残る夜叉ヶ池。登山口から登りはじめて池に着くまで約2時間半。今日はどんな伝説に出会えるだろうか、着いたらどんな表情を見せてくれるだろうか、そんなことを毎回考えさせてくれる場所だ。



夜叉ヶ池山から見る夜叉ヶ池

夜叉ヶ池は、福井県と岐阜県の境、夜叉ヶ池山の北側、周囲は原生林におおわれた標高1,090mの山頂付近にある周囲約230m、最深7.8mの池です。古来より竜神伝説や雨乞いの池として名高く、泉鏡花の戯曲の舞台となった伝説の池としても有名です。毎年6月初旬に山開きの神事が行われ、四季折々に姿を変える夜叉ヶ池は、とても神秘的で多くの人々が訪れます。登山口の手前には樹齢約400年のカツラが、登山道の途中には、樹齢300年以上のトチノキがあり、登山者はその巨大さに目を奪われます。



希少種「ヤシャゲンゴロウ」①

また、ヤシャゲンゴロウは、夜叉ヶ池だけに生息する固有種で、環境庁より「国内希少動植物種」に指定（1996年）されました。



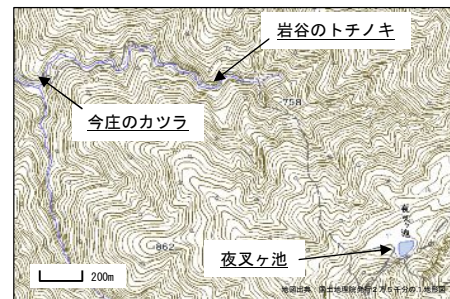
ニッコウキスゲが咲く夜叉ヶ池



岩谷のトチノキ



今庄のカツラ②





今に伝わる 明治の石積み砂防堰堤 えんてい

南越前町古木など ふるまき

明治時代に築造され、永くその役目を果たしてきた砂防堰堤群。堰堤の前にたつと、ふるさとを守ろうと力を合わせて築いた昔の人たちの思いがよみがえってくるようだ。



アカタン砂防大平ミズヤ上堰堤 (国登録文化財) (南越前町古木) ①



アカタン砂防8号堰堤 (国登録文化財) (南越前町古木) ②

県内には、明治時代に築造されてから、100年以上たった今もその機能を発揮している砂防堰堤があります。

石と石との間をコンクリートなどで固めずに、石をうまく組合せて積む空石積工法の堰堤は、自然の地形かと見間違えそうなほど周囲の自然景観と溶け込みながらその役割を果たし続けています。

南越前町赤谷川に設置され、「アカタン」あかたにとして親しまれている堰堤群は、



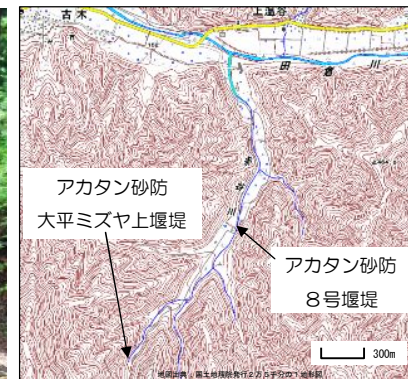
高倉谷川砂防ハイクの様子 (南越前町瀬戸) ③

近年、地元住民の調査により全部で9箇所発見されており、国の有形文化財に登録されています。発見された後、地元の住民グループを中心に堰堤の保全や自然学習などの活動が展開されており、地域住民に親しまれています。

こうした活動が契機となり、アカタン周辺の高倉、久喜、おつるめ、ひろのでも同時期の砂防堰堤が相次いで発見され、それぞれの住民組織も立ち上がりました。ふるさとを守るため、力を合わせて築いた村人の思いがよみがえってくるようです。



アカタン砂防堰堤の保全活動④





海の道と馬借街道の中継港 河野

南越前町河野、越前市広瀬町など

敦賀から越前府中への中継港として栄えた河野。海上七里を渡った人や物資は、ここから馬借街道を通して越前府中へ向かったという。馬と舟が行き交った往時の賑わいを河野の家並みは静かに語りかける。



河野の家並み



家並みのライトアップ①

南越前町河野は、江戸から明治時代にかけて行き交った北前船の船主を輩出した集落です。船主の邸宅は山側の旧道沿いに建ち並び、その家並みは往時の繁栄ぶりを偲ぶことができる景観です。その中でも、北前船日本海五大船主である右近家はその代表です。現在、北前船歴史資料館となっている母屋をはじめ、高台には国の登録有形文化財となっている西洋館などが残っており、西洋館からは素晴らしい日本海の眺望が広がります。

また、交通の要所であった木ノ芽峠を通らず、敦賀から海路で河野浦に渡り、そこから陸路で府中（現越前市）に物資を運んでいた馬借街道が残っています。戦国期から馬借が廃止される明治初期までの約400年の間、多くの人々や荷物が行き交い、生活を支えていた光景を偲ぶことができます。



明治初期まで荷が行き交った馬借街道（市史跡・町史跡）（越前市広瀬町）



越前・河野しおかぜライン（南越前町大良）

河野地区は福井県を代表する景勝地で国定公園に指定されている「越前海岸」の入口にもあたります。その景勝を活かした観光客などの誘致を目的に海岸線に沿って整備された全長約9kmの越前・河野しおかぜラインから見える風景は、ここから始まる越前海岸の美しい景観のプロローグです。



北前船主の館 右近家、右上が西洋館（国登録文化財）（南越前町河野）



写真①は南越前町提供



山を越え海を越えた鉄道 今庄～敦賀

敦賀市^{とね}刀根、金ヶ崎^{かねがさき}、南越前町^{おおぎり}大桐など

明治から人や物を運んできた鉄道の風景が、様々な時代の顔を見せてくれる。現在と過去が交錯する鉄道を外れ、残されたトンネルにて耳を澄ますと、私たちの心に汽笛の声を運んでくる。



小刀根トンネル

敦賀市から南越前町にかけては、福井の発展を支えた近現代の数多くの鉄道遺産を見ることができます。

敦賀市刀根の集落付近には、旧北陸本線（昭和39年廃止）の路線が通っていた小刀根トンネルが往時を偲ばせる姿で残されており、トンネル上部には「明治14年」と刻まれた要石が現在も残っています。

また、旧北陸本線敦賀・今庄間には12箇所ものトンネルがありました。そのうち最も長い今庄よりの山中トンネルは、出入り口や内部の壁面がレンガで造られており、蒸気機関車が煙を吐いて走った当時に偲ぶことができます。



山中トンネル①



再現された旧敦賀港駅舎



ランプ小屋



沖合から見る敦賀港



敦賀港線

敦賀市内に移動すると、戦前は欧亜国際連絡列車の発着地点として活躍し、戦後は敦賀の物流を支えた敦賀港線が残り、再現された旧敦賀港駅舎も併せ往時の雰囲気を感じます。

欧亜国際連絡列車で往来した多くの旅人は、沖合から旅の思いとともに敦賀港を眺めたことでしょう。

そして敦賀市^{はとほら}鳩原付近には、北陸本線新線開通・複線化に伴い敷設されたループ線（上り線）が走り、直線の下り線とクロスしています。



ループ線（鳩原地区）②



写真①は南越前町、②は敦賀市提供